

感染症情報 10月15日～21日

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	616例(堺市	24例)
②溶連菌感染症	354例(堺市	53例)
③RSウイルス感染症	261例(堺市	28例)
④手足口病	226例(堺市	16例)
⑤ヘルパンギーナ	119例(堺市	11例)

府下インフルエンザ定点305医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	99例(堺市	7例)
---------	--------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週比6.4%増の1,883件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、手足口病、ヘルパンギーナの順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より4%増、堺市では前週と同数であった。溶連菌感染症は府下で前週より17%増、堺市では前週39例→53例は36%増であった。RSウイルス感染症は府下で前週より12%減、堺市で12例→28例であった。手足口病が府下で前週より44%増、堺市では前週8例→今回16例は倍であった。ヘルパンギーナは府下で前週より3%減、堺市で4例→11例であった。

インフルエンザが府下で前週が69例で、今回は99例であった(43%増、定点当たりの報告数でいえば0.3)。堺市では前週なしで、今回は7例あった。

麻疹の報告はなかったが、風疹が府下で前週5例→今回13例あった(堺市では0例)。